

吉成 浩昭

Q1・クロッキーの際に、重視している要素や目指していることは何ですか？

固くならないこと、勢いと発想、暗示的なタッチ、絵にする意識を持つこと。

Q2・好みの画面サイズや時間、その理由があれば教えてください。

5～10分、A4などの小さい紙であれば1～2分。

細かい描写や調整をする余裕を残したくないので。

Q3・黒色の素描材料では何をよく使いますか？また、どのようなメリットがあると考えていますか？

素描では木炭が1番多い。大胆に塗ったり描いたり落としたりが容易。

Q4・クロッキーにおいて「黒」をどのように使いたいですか？

あまり考えたことはないが、きっと黒を意識しない絵になって欲しいのだと思う。

色になったり、質感になったり、探る行為そのものになったり、とにかく黒よりも先にそういうものが見える絵を目指したい。

Q5・描き出す際、輪郭、稜線、軸などのうち、どの要素に重点を置いて始めることが多いですか？（特に人物の場合）

そこに手を入れるかどうかは置いておいて、軸が最初。軸が感じられる人物は存在感がある。

Q6・クロッキーの制作途中で特に注意している点がありますか？

当初の計画が狂った際にどう受け止めるか。そこから立ち上げられる最善を探す。

Q7・クロッキーの仕上がりを確信するのはどのような時ですか？

トラブルを乗り越えたとき。自分の中の制作の過程が完了する感じがする。

Q8・クロッキーとタブロー（彫刻の場合、立体作品）で同じ対象を捉える場合、感覚の違いなどはありますか？

気持ちは一緒のつもりではあるが、時間の使い方が大きく異なってくるのでなかなか同じように捉えるのは難しい。

時間をかけると見えてくる情報、短時間だからこそ割り切れる情報の差は大きい。

Q9・作品制作時にクロッキーをどのように役立てていますか？

クロッキーは捉えたいものが簡潔に表現されているので、制作の途中で見返すことは多い。

シンプルな表現には独特の強度があり、手数が増えてきた頃合いでクロッキーをする場合もある。

Q10・あなたにとって、クロッキーはどのような意味を持っていますか？

頭の中の洗い出し、整理整頓。

頭の引き出しの奥に仕舞って忘れていたものが出てくることもある。